



# 紫雲児の心

## 人は変わる【12月22日 2学期終業式校長講話より】

校長 五十嵐 めぐみ

12月1日（金）に「紫雲寺地区小中連携いじめ見逃しゼロ集会」が行われ、紫雲寺中学校区の3小学校の6年生が紫雲寺中学校に来て、中学生と一緒に縦割り班でいじめについて考えました。

12月3日（日）の新発田市人権フェスティバルの中の人権作文コンテスト表彰式では、3年生の小林希愛さんの「話すことで」が最優秀賞を受賞しました。受賞作文（抜粋）を紹介します。

みなさんは、「死」について考えたことはありますか？私は何度か考えたことがあります。

私は小学校6年生の頃、友達に嘘をつかれていました。今ではもう気にしていませんが、この頃はとても辛かったです。ある時、いつものように友達に「今日遊べる？」と聞いたら「遊べない」と言われました。その時は何の違和感もなく過ごしていましたが、別の休みの日に、遊べるか電話したところ「遊べない」と言われ、「自分は避けられているのではないか？」と思うようになりました。おばあちゃんと散歩に行ったら、「遊べない」と言っていたはずの友達が他の友達と遊んでいました。私はショックで急いで帰りました。おばあちゃんに「のあは遊ばなかったの？」と聞かれた時、心配をかけたくなくて「誘われたけど断った」と嘘をついてしまいました。その時は泣かないように耐えていたけど、「辛い」「ショック」という気持ちがすごく大きかったです。私は、やはり避けられていたようです。私は、自分にこんなことが起きるとは思っていませんでした。

この頃から何度か「死」について考えるようになりました。一番考えたのは、中学校に入る前の春休みです。小6の出来事もあり、人を信じるのが怖くなり、ずっと家にいていろいろ考えるようになりました。考えれば考えるほど胸が痛くなりました。ご飯を食べるのも辛くなり、みるみる体重が減っていきました。この頃、初めて「死にたい」と思いました。でも、中学校に行けば何かが変わると思い込んでいました。

中学校に入学してしばらくは何も起こりませんでした。ある日また「死にたい」と思うことが起こりました。「あだ名」です。私が気にしていることを指摘するあだ名を言われ、「やめて！」と言っても笑っていてやめてくれません。周りで聞いていた人からもそのあだ名を言われるようになり、最悪でした。その時また「死」について考えました。「もし、ここに自分がいなければどうなっただろう？」「もう疲れた」「死にたい」と。けれど、あることをきっかけに「死にたくない」と思うようになりました。友達です。自分と同じような思いをしている友達に出会って考えが変わりました。友達に相談したりいろいろ話したりするうちに、「とても楽しい」と思うようになりました。私は「この人たちと一緒にいたい。この友達がいてくれて本当に良かったな。」と思います。

もし、私と同じような思いをしている人がいれば、誰かに相談してみてください。人に話すことで気持ちが楽になり、「死にたい」という思いから「死にたくない」「生きたい」という思いに変わります。誰でもいいから話してみてください。

ほとんどの人が、いじめた経験もいじめられた経験もあるという調査結果があります。いじめは誰にでも起こります。いじめたことがある人も、いじめを「自分ごと」と受け止め、いじめてしまったことを深く反省し、自分の言動に責任をもてば、必ず変わります。自分がいじめをしないのはもちろん、いじめを許さず、見逃さない人になれます。自分次第で、人は変わります。

そして、もし、いじめられて辛い時などには、誰かに話すことで気持ちが少し楽になります。一人で悩まず、話してみてください。「話す」ことで、辛い気持ちを「離す」ことができます。